

フープ

女性建築士の輪

NO. 102

2021年 冬号



直島「南瓜(黄かぼちゃ)」

目次

- | | | |
|--------------------------|--------|---------|
| ■ 糸魚川にて(復興住宅に接して) | 上田 壽子 | P 1 - 2 |
| ■ 「空き家マッチングセミナー」の企画に関わって | 野村 亜希子 | P 3 - 4 |
| ■ 苔ワークショップに参加して | 福永 香奈 | P 5 - 6 |
| ■ 私の好きな場所 | 庄田 尚代 | P 7 |
| ■ 新会員紹介 | 石井 智子 | P 8 |
| ■ ご報告・今後の事業予定 | | P 9 |
| ■ 編集者が選ぶフォトジェニックスポット | | P 10 |

とにかく車のナビを入れてみる。家から糸魚川まで423 ㎞・・・行けるかぁ・・・で走る。10 月 17 日土曜日朝 5 時出発。辺りは暗いし雨が降っている。名阪国道～東名阪道～名古屋都市高速～東海北陸道～北陸道を乗り継いで 3 回休憩。糸魚川駅に着いたのが午前 11 時過ぎ、6 時間余りのドライブでした。

なぜ糸魚川かというと、2 年ほど前、市の中心部が大火災にあって去年復興住宅ができたと建築雑誌で見たからです。富山市から約 80 ㎞、糸魚川は新潟県が一番西の端です。小学生のころ習った糸魚川から静岡までの構造線が走っているところです。その 3000m 級の北アルプスと東の戸隠連峰の間から吹き降ろす「蓮華おろし」という強い南風がこの火災を大きくしてしまいました。関西人には海のすぐ近く、北風にあおられた・・・と思いがちですが、強烈な南風によって 10 時間以上 140 棟を焼き尽くしたそうです。



写真1～4 は再建された市立の集合住宅です。自力再建が困難な方用の住宅として木造 2 階建てと敷地の傾斜を生かした 3 階建てからなっています。写真2の道の向こうは国道 8 号線の先に日本海が広がります。住宅は 18 戸で診療所や集会室があります。

土地に勾配があり、中庭が南北棟の目線をさりげなくかわしています。（写真 3）

この辺りは雪深いところでもあり町中には「雁木」が残っています。この建物もガンギデッキを設け避難経路としても使われているようです。人口 4 万人強の町ですが新幹線の駅がある町としてはちょっと寂しい気がしました。（コンビニもない）

糸魚川といえば以前から気になりつつ行ってみたいと思っていた、村野藤吾氏の最晩年の仕事、谷村美術館があります。30 年来の私の行き残している建物にやっと思うことができました。（写真 5～8）

土の中から突如現れたような形、この手作り感、やはり村野氏が粘土をこねて模型を作られたのだらうなあと感じ入った次第です。氏のスケッチも残っていました。



5



6



7



8

内部は撮影禁止でしたが、次の部屋へのドキドキ感や光の導入の仕方が計算されたものと表から裏から回って感じたことでした。やっぱりすごい！！

(おまけ・・・) 帰りは上越市にできた水族博物館「うみがたり」をまわりました。(写真9)

最近の水族館はイルカのショー、ペンギンの餌やり体験・・・とよく似たものばかり。それぞれに面白い生き物たちだけど、この狭いプールで一生懸命芸を披露する彼たちにちょっとなあ・・・と感じてしまいます。何とか「見せ方」に工夫がされています。が、なぜか虚しい。



9

上信越道から小布施を經由、長野道を通り「安曇野ちひろ美術館」へ。松本で一泊。サラダ街道を塩尻へ、りんごゲット。旧中山道国道19号線を下ってきて中津川で中央道へ。帰り着いたのは午後4時ごろ。帰りは7時間あまりかかってしまいました。3日間走行距離は1000^{キロ}を少し回っていました。

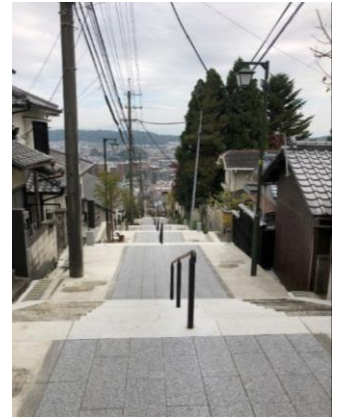
「空き家マッチングセミナー」の企画に関わって
野村 亜希子

昨年12月、生駒市主催の「空き家マッチングセミナー」というイベントが開催されました。生駒市は建築、不動産関連の事業者で構成される「いこま空き家流通促進プラットフォーム」という組織を設立し、市が保有している空き家情報を所有者同意の上、各事業者提供し連携を図ることで空き家の流通促進に取り組んでいます。今回のセミナーはその一環として企画された、空き家と空き家を探している方との「出会い」をセッティングするイベントです。あえて流通の難しい「訳あり」物件が主役に据えられました。同じく生駒支部会員である金井亮さん、寺岡春恵さん、福永香奈さんと共に企画に関わることになったのですが、その「訳あり」物件の活用について考え、プレゼンするというのが私たち建築士の役割でした。

準備期間は1ヶ月と少し。まずは、空き家の下見からスタートしました。生駒市がピックアップした5件の物件を見て回りました。一歩中に入ると建物の歪みで平衡感覚が失われる物件、カビの匂いが漂う物件・・・空き家になってから年数が経っており、その分傷みが進んでいるようでした。お屋敷と呼ぶにふさわしい魅力的な物件もありましたが、敷地も建物も広すぎて持て余すほど。また、家財道具が残されたままの物件もあり、空き家になった背景が気になり、探偵のような気分になりました。どの物件も流通困難であることが容易に想像できました。

最終的に3物件が選ばれ、その中の1つ、宝山寺参道沿いの物件を寺岡さんと2人で担当することになりました。生駒駅まで徒歩約15分、商業地域にあり、店舗利用も可能な物件。敷地約50㎡、延べ床面積約60㎡、築39年の木造2階建て住宅です。寺岡さんが店舗案、私が住宅案を担当することになりました。

依頼主のいない架空のプランニングなので、好きなように提案できそうなものですが、一般的に受け入れられることを目指してしまうため、かえって自由度が低く、難しさを感じました。特にこの物件は宝山寺の参道＝階段に面しており、車庫がありません。また、通常、住宅設計では長く住み続けられることを念頭に置きますが、この立地ではバリアフリーに対



宝山寺参道(階段)

応できそうにもありません。そもそもの立地条件が「一般的」とは言い難く、行き詰まってしまいました。

悩んだ末にたどり着いたのは、「同じ家族がずっと住み続けなくてもよいのではないか」という結論です。居住者家族が転居することになった場合、例えば、シェアハウスやオフィス兼住宅など、賃貸物件という形で活用できたらよいのではないかと発想を変えました。駅まで徒歩圏内ですので、日常的に電車で移動する方なら選択肢として考えられます。家族居住用の住宅を基本形とし、大がかりな工事をすることなく転用可能なプランを提案することになりました。

マッチングセミナー当日は新型コロナウイルス感染防止に配慮し、オンラインのみでの開催となりました。関西圏外からの申込みもあり、合わせて約40組が参加されました。遠方からも気軽に参加できるのはオンラインの利点です。

そもそも人前で話すのが苦手な私は、オンラインでのプレゼンという慣れないことに戸惑うばかり。拙い説明になってしまいましたが、少しでも興味のわいた方がおられたらうれしいです。

今回の企画に関わる中で、私自身の考え方にも少し変化が生まれました。最初は「訳あり」物件のマイナス要素が目につき、活用の提案は現実味のないものに思え、半信半疑でした。ところが、物件に向き合い、プレゼンの準備を進めていくうちに、現実の提案をしているような気持ちになり、どこかにこの物件にぴったりの方がおられるのではないかなと思うようになりました。物件の良し悪しの判断基準は人によって様々。むしろ肝心なのは「出会い」なのではないでしょうか。住み手を失ったお家は、できるだけ早く、傷まないうちに良い「出会い」をしてほしいと強く思いました。

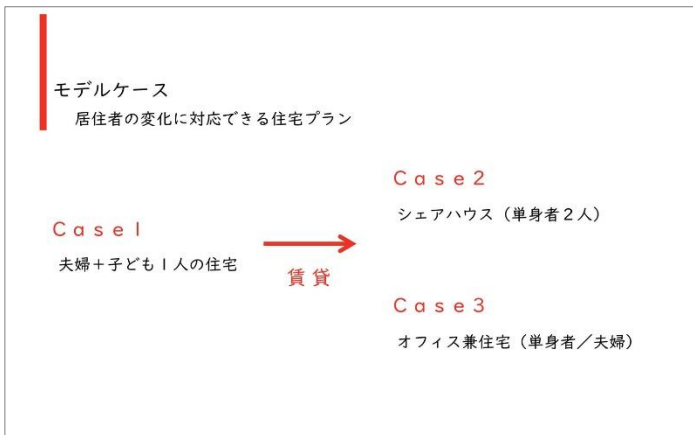
■ プレゼン内容の一部（記事掲載に合わせ、抜粋・編集したものです）



1. 現況平面図



5. 改修計画 Case1(基本プラン) 2F夫婦寝室 イメージ



2. 活用のモデルケース



6. 改修計画 Case2(シェアハウス) 1Fリビングダイニング イメージ



3. 改修計画 Case1(基本プラン) 平面図



7. 改修計画 Case3(オフィス兼住宅) 1Fリビングダイニング イメージ



4. 改修計画 Case1(基本プラン) 1Fリビングダイニング イメージ



8. 改修計画 Case3(オフィス兼住宅) 2Fワークルーム イメージ

9月26日、南港ATCグリーンエコプラザで行われたNPO法人もく(木)の会主催のイベント『苔で地球温暖化防止に貢献！～苔テラリウムのワークショップ』に参加させていただきました。

講師は『苔おじさん』こと泉原一弥さん。ふだんは岸和田でクリーニング業を営みながら、地球温暖化防止とその他の環境緑化を推進したい、という思いで『地球温暖化防止帽子』を作ったり、車の屋根に苔を載せて町中を走ったりしておられます。これらの功績により、現在は大阪府地球温暖化防止活動推進員として活躍されています。



地球温暖化防止帽子をかぶる泉原さん

まずは苔とはどういうものか？というお話です。身近にあるものですが、実は何も知らなかったと気づかされました。

苔は水がなくても死なずに、仮死状態で耐えられるそうです。雨が降るのを健気に待っていて、水を得ると復活します。実際に乾燥状態の苔に水を吹きかけて、パッと開いて色が鮮やかになっていく様子を見せていただきました。

また、苔は虫や鳥に食べられる心配がありません。それは栄養がないから、すなわち養分が必要ないという事です。苔は水と光と空気があれば酸素を作ってくれるとても優秀な植物だったのです。

日本では1800種、世界では2万種の苔があり、普段は森の暗がりにも暮らしています。寒さに強く、暑いのは苦手ですが、砂苔という種類だけは直射日光が当たってもOKで、泉原さんが車の屋根に載せてい

るのもこの種類。水やりなどのお手入れは不要で、飛ばないようにネットで押さえているそうです。

説明中、何度も『苔さん達』とおっしゃる泉原さんの苔への愛情深さが印象的でした。



『やあね、こけちゃっカー』モコモコして可愛いです。

そして『苔テラリウム』ワークショップです。9センチのアクリル立方体の中に土と苔で小さな森を作ります。

- ①細粒の赤玉土で地形を作ります
- ②青い砂を水に見立てて水辺を作ります。
- ③木のチップを山や橋などに見立てます。
- ④苔を植えます。
- ⑤小物で飾付けます。

この日は7種ほどの苔があり、種類ごとに扱い方や上手な植え方、植える順番などを教えていただきました。



泉原さんが貝殻や恐竜、キノコに動物たちなど沢山の小物を用意してくださっていました。1人2つまで、ものすごく迷います。みんな童心に返って会場が一気ににぎやかになりました。



ピンセットやスプーン、割りばしなどで製作できるので特別な道具は使いません。皆さん思い思いに『ジャングル』や『浜辺』など製作されていました。他の方の作品を見るのも楽しく、久しぶりに無心になって取り組みました。



最後に参加者全員の作品を並べてパチリ。

持ち帰った苔テラリウムは、1～2週間に一度霧吹きでシュッと水やりをするだけで良いとのこと。コウヤノマンネングサというヤシの木のような形の苔がくたっとしてきたら水やりのタイミング、と教えていただきました。

私の苔テラリウムには川を流して橋を架けたのですが、前から見ると殆ど見えなくて、もっと高低差を付ければ良かったと少し後悔しています。

持ち帰った‘苔さん達’は我が家のリビングで元気

に暮らしています。お花や植物のようにお手入れが要らず、部屋の中にグリーンを置けるのはありがたいですね。

苔はどこで入手するのか？と思っていましたが、ネットや道の駅など色々な場所で売られていました。今まで気にしていなかったただだったんですね。また機会があれば挑戦してみたいと思います。



『苔に親しんで欲しい』という泉原さんのお気持ちと、ふわふわの苔の触り心地に癒された一日でした。

泉原さんが車の屋根に苔を載せてから10年、『2台目、3台目が出てこない！』のがお悩みだそうです。どなたか勇気(?)のある方、2台目に名乗りを上げてはいかがでしょうか？

私の好きな場所

庄田 尚代

私の好きな場所で 真っ先に思い浮かぶのが、埼玉県立近代美術館のオープンカフェです。美術館は、有名な黒川紀章氏の設計で、緑豊かな北浦和公園の中にある曲面のガラス張りの印象的な建物です。公園には、少し低く下がった位置に大きな池の噴水があります。定期的に音楽噴水ショーが始まり、たくさんの人が集まって楽しんでいました。20 年以上前、ベビーカーを押して公園に通っていた頃、ひとしきり遊んだ後、無料の常設展を見てカフェでお昼を食べるのが定番でした。カフェは公園に張り出すようにオープンなスペースになっていて、外の空気と直接は見えないけれども、噴水の水音が聞こえてくるのが好きでした。周りを気にせず、食事を楽しんだり、話をしたりすることのできる場所でした。

その次に思い浮かぶのが、東京の青山にあるスパイラル（これも有名な槇文彦氏の設計です）のアートギャラリー横のスパイラルカフェです。スコーンやケーキやサンドイッチが、「こんなに食べられる？」というぐらい 3 段のティースタンドにのっていたのを覚えています。天井が低くやや暗めの照明で、落ち着いた雰囲気のカフェです。カフェの向こうにある吹抜のギャラリー空間は、名前の通りスパイラルのスロープが回っていて、上から差し込む光でとても明るく、カフェとの対比が面白く好きでした。

改修前の東京駅ステーションギャラリーにあったカフェも好きでした。改修後はわかりませんが、2 階の吹抜の周りにある細い通路（回廊）沿いに席が並んでいて、席毎の小さい窓からは、上を見上げるとすぐ近くにドーム型の天井が見え、また下にはコンコースの駅を利用する人々の往来が見え、時間の経つのも忘れ、いつまでも見ていることができる場所でした。

いずれも、ずいぶん古い記憶ですが、よく思い出す場所です。

京都の平成知新館（谷口吉生氏設計）内、併設のカフェも好きです。水盤に面している、縦長の細い窓割

の長い通路の吹抜け空間を抜けると、カフェがあります。全面がガラス張りです。庭が一望できます。庭に伸びた低い庇と樹木で囲まれた空間はとても落ち着く場所です。



平成知新館のカフェ

最後は、福井県年縞博物館（内藤廣氏設計）のカフェです。水月湖の水底に堆積した土の 7 万年分の縞模様（年縞）が 45m にもなるそうです。7 万年分の縞模様を見た後、その頃から変わらない三方五湖を望める 2 階の小高いところにあるカフェへ行くと、そこからの風景が、時間の堆積を感じさせてくれます。パンを 10 枚ぐらい重ねた年縞サンドで盛り上がることもでき、楽しい空間です。



年縞の展示



年縞サンド

新会員紹介

石井 智子



はじめまして。このたび奈良県建築士会に入会させていただきました石井と申します。

何卒よろしくお願いいたします。

事務所は桜井の元伊勢街道沿い、茶臼山古墳のそばにあります。物件を探しに

来て、大家さんに案内され、茶臼山古墳に連れていただきました。古墳の上からは美しい三輪山が見えて、この場所を一目で気に入りました。事務所の2階の窓からも三輪山の全貌を見ることができます。お蔭様で四季折々の三輪山の美しさを楽しんでおります。

事務所を出て少し歩くと大和川がゆったり流れ、桜並木があって、満開の花や紅葉がとてもきれいです。のどかな田園風景を眺めていると三輪山の麓に着きます。山道には水路が美しい音を立てて流れ、林に沿って歩きます。また、近所には歴史のある住宅が懐かしい町なみを作っており、町を歩いていてもホッとします。こちらに来て歩き回ることが断然多くなりました。山ノ辺の道、鳥見山などは、お気に入りのコースです。

先日60年前に撮影された二川幸夫氏と伊藤ていじ氏の「日本の民家」という本を見る機会がありました。その中に登場するあまりにも美しい町なみと民家の堂々たる迫力に圧倒され、何とも言えない感動がこみ上げてきました。そこで営まれた地に足の着いた人々の暮らしも目に浮かぶようでした。現代においても奈良にはそのような暮らしぶりが脈々と続いており、それは住み心地の良さになっています。歴史のある建物が好きですので、ヘリテージ部会に入り活動させていただきたいと考えております。ぜひよろしくお願いいたします。



大和川と三輪山



打ち合わせ室



打ち合わせコーナー

本保万貴子さんが、令和 2 年度日本建築士会連合会会長表彰を受けられました。本保さんは、長年、奈良士会、女性委員会のみならず、連合会、近建女の活動、運営にもご尽力されてきました。特に、平成 28 年全建女「奈良」では、女性委員長として、様々な障害を乗り越え、我々委員を鼓舞し、取り組まれました。その甲斐あって全建女「奈良」は大成功となりました。本来であれば、全国大会広島大会にて会長より表彰される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う大会延期により、昨年 12 月の理事会にて、米村会長より、表彰状と記念品が贈呈されました。本保さんは、やはり全建女の出来事を最も思い出深いものとしてあげられ、「80 歳までは頑張っ続けていく。」とおっしゃっていました。



2021 年

2月

10 日 (水)

既存住宅状況調査技術者講習
(新規講習)

11 日 (木)

建国記念の日

17 日 (水)

第四期建築士定期講習
(奈良県文化会館)

17 日 (水)

ふくまち部会勉強会（オンライン）

24 日 (水)

監理技術者講習

25 日 (木)

中大規模木造設計セミナー

3 月

10 日 (水)

既存住宅状況調査技術者講習
(更新講習)

19日(金)

和室勉強会 2 (オンライン)

24 日 (水)

監理技術者講習

4月

21 日 (水)

監理技術者講習

5 月

18日(火)

令和3年度通常総会
(奈良県文化会館)

19 日 (水)

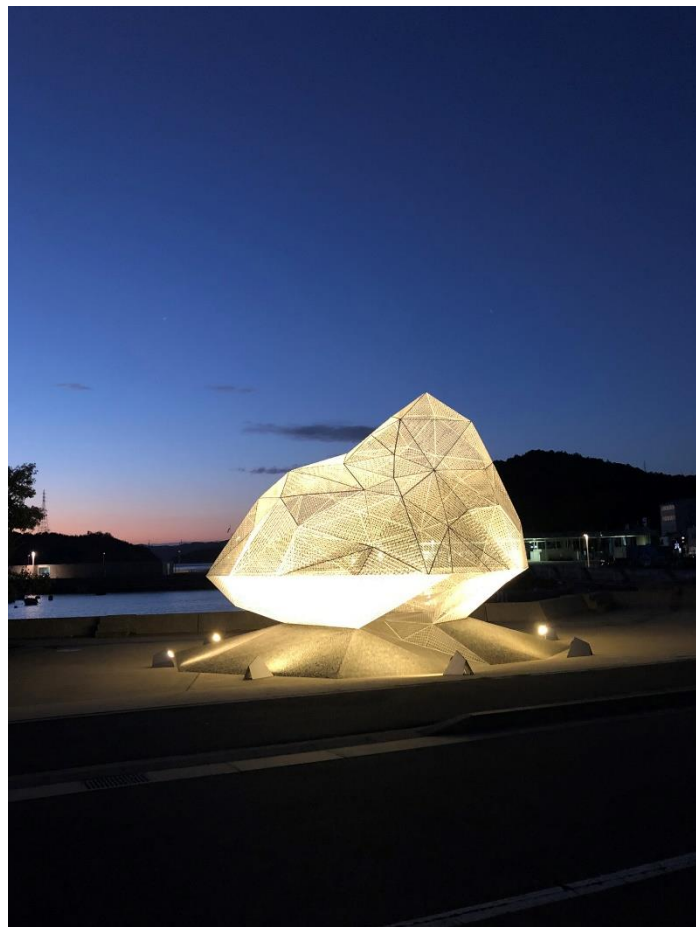
監理技術者講習





編集者が選ぶ！

フォトジェニックスポット



直島パヴィリオン

島の玄関口である宮浦港に設置された建築家藤本壮介氏の作品。27の島々からなる直島町の「28番目の島」がコンセプトです。ステンレス製の三角形の金網約250枚を組んだ多面体で、縦・横ともに約7.5m、高さ約6.3m。内部に入って座ったり寝転んだりすることもでき、語らいの場や子どもの遊び場にもなります。夜にライトアップされた姿はとても幻想的です。

■撮影場所 案内図

住所：香川県香川郡直島町



▼：表紙の写真の撮影場所

編集後記

新型コロナウイルスが確認されてから1年が経過しました。この間、誰もが先行きの見えない不安を抱えつつ、この状況に適応し前に進もうと努力してきたのではないのでしょうか。特に、オンラインの活用が進んだことはコロナ禍の功名と言われていきます。オンラインでのミーティングやセミナーなど、この機会に経験された方は多いのではないのでしょうか。『「空き家マッチングセミナー」の企画に関わって』の記事の中でも触れましたが、遠方からでも参加できるのがオンラインの魅力です。コロナ禍が収束した後も多方面で活用されていくのではないのでしょうか。

ところで、私が初めてオンラインミーティングを経験したのは、昨年4月、フープ100号記念号の打合せでした。それ以来オンラインミーティングに参加する機会が時々あるのですが、他の方と比べると私の画面は暗く、そこに映る自分の顔映りの悪さがいつも気になります。在宅時のワークスペースとしてリビングダイニングを使っているのですが、電球色の温みのあるライティングはワークスペースとしては少々暗く、オンラインには不向きなようです。

そんなことを実感しながらも特に対策せずに過ごしていたのですが、突然、リビングダイニングのメインの照明器具が故障し、それを機に買い換えることになりました。よりによって年末に故障したためメーカーは休業中。手持ちの仮設照明で何とかしのぎましたが、薄暗いお正月を過ごす羽目になりました。

新しい照明器具は工事不要、Bluetoothのリモコンで調光だけでなく調色も可能。さらには、スマートフォンからも操作できるという今時な仕様です。早速、明るく白っぽいライティングを試してみました。ワークスペースというよりは、子ども時代の勉強部屋を思い出すどこか懐かしい雰囲気ですが、これでオンラインミーティングにも対応できそうです。

結局、日常的には以前の照明器具と同じような明るさ、色に合わせています。仕事も問題なくできますし、やはり落ち着きます。コロナ禍で図らずもライティングについて考えるきっかけが得られました。

(野村 亜希子)